

【映像】

愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品第21弾

選定作家：

森 弘治（もり ひろはる／1969年横浜生まれ）

1994年に多摩美術大学美術学部日本画学科を卒業。その後渡米し、2000年、クランブルック・アカデミー・オブ・アート大学院修了(美術修士号取得)。2004年、マサチューセッツ工科大学(MIT)大学院建築学部視覚芸術学科修了(理学修士号取得)。留学中にはヴィト・アコンチよりパフォーマンスの指導を受けている。

近年では「第52回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際企画展」(2007年)、「第13回パングラディシュ・ビエンナーレ:Anomalies展」(2008年)、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2009」、第3回恵比寿映像祭「デイドリーム ビリーバー、映像の力」(2011年)等に出展。『Re:』(2006年)や『死のワークショップ/Workshop for Death』(2010-11年)などの作品で、社会に常態している人間の無意識を、演じることを客観化するアプローチを通して視覚化(映像化)する、独自の試みを行っている。

作家選定委員

天野 一夫（美術評論家、豊田市美術館チーフキュレーター）

岡村 恵子（恵比寿映像祭ディレクター、東京都写真美術館学芸員）

北小路隆志（映画評論家、東京国立近代美術館フィルムセンター客員研究員、
京都造形芸術大学准教授）

酒井 健宏（映画研究家、名古屋学芸大学非常勤講師）

越後谷卓司（愛知県文化情報センター主任学芸員）